

平成22年度～26年度

津門社会福祉協議会「第7次地区福祉推進計画」

＝西宮市社会福祉協議会 今津支部津門分区＝

津門地区の現状をふまえながら、津門社会福祉協議会のこれまでの活動を振り返るとともに地区活動者（役員及び関係団体等）からの意見を基に検討の結果、今後5カ年「平成22年度～26年度」の福祉目標及び重点目標を次のとおり設定し、地区住民の福祉向上を目指します。

なお、基本的には、協議会活動の継続性を重視し、無理なく着実な形での福祉活動を進めるべきだと考えます。そのためには、現在の活動を土台にして、今後の社会情勢などを十分に見極めながら組織体制、活動内容の見直しも含めて各事業への取組みを進めます。又、これからの取組みに対応できるよう、より一層、各町及び各種団体の連携を深めるとともに地域福祉活動に対する住民意識の向上を図ります。

つきましては、今後とも、当協議会活動に必要な“人”と“場所”と“金銭（財源）”の確保等に皆様方のご理解並びにご協力をいただきたく存じますので、よろしくお願い申し上げます。

福 祉 目 標

誰でも安心して暮らせる“心のかよった福祉のまち”づくり

重 点 目 標 《活動の5本柱》

項 目	主 な 内 容
1. 地区活動の人材確保	①住民意識の向上。②若年層の参加。③世代間（高齢者・壮年・青年）の連携協力。④役割分担（役職の分散）の推進。⑤学習・研修活動の強化。
2. ふれあい交流活動の充実	①各種交流事業の継続実施（チビッコ遊び場つと、夏まつり、三世代交流グラウンドゴルフ、高齢者のつどい、スタンプラリー、新年互礼会）。②防災活動の推進。③ファミリー運動会等への協力・支援。
3. 住民の連帯と見守り活動の推進	①住民相互の挨拶と声かけの推進。②地区内散歩を勧める（児童の帰宅時間に小学校周辺と帰路等）。③高齢者及び児童関係者（老人クラブ・PTA・青愛協等）の協力・連携。
4. 生活意識と住環境の改善・整備	①省エネ生活の奨励及びエコ活動の啓発。②リサイクル活動の推進。③地域清掃の推進。④防犯活動の推進。
5. 地区施設の有効活用	①大箇市民館の建替を要望・推進。②各種施設（特に津門集会所及びつと老人いこいの家）の充実化を進めるとともに、よりよいあり方を目指し、活用を図る。

私たちの住んでいるところ

津門地区の状況 《こんなところです》

「津門」と書いて「つと」と呼びます。その名前から港を連想しますが、西国街道沿いの町として栄えたところでもあり、古代からの伝説（織り姫上陸の伝承、美女丸と幸寿丸の寺伝）も残っています。

津門地区の特徴

北はJR神戸線、南には阪神電鉄本線が東西に通り、中央には阪急電鉄今津線が南北に通っており、JR西ノ宮駅、阪神今津駅・久寿川駅及び阪急今津駅・阪神国道駅が地区内や隣接地にあります。又、国道2号線と旧国道が東西に走り、名神高速道路の西宮インターにも隣接しており、**交通の便には非常に恵まれています。**

なお、病院等の医療施設や大型商業施設も地区内及び近隣に多数あり、**通院や買物にも便利**なところです。

地区内の公共（的）施設、社寺及び公園

公共施設《10》	公共的施設《5》	社 寺《2社3寺》	公 園《5他》
津門小学校 (昭和6年～)	桂みどり園 (昭和23年～)	津門神社 (天照皇大神)	津門公園
教育会館 (昭和33年～)	こひつじ幼稚園 (昭和25年～)	日吉神社 (天照大神)	西口公園
大箇市民館 (昭和38年～)	綾羽郵便局 (昭和37年～)	昌林寺 (浄土宗)	西浜公園
西宮消防署 (昭和41年～)	こぼと幼稚園 (昭和47年～)	浄願寺 (日蓮宗)	大塚公園
呉羽ポンプ場 (昭和43年～)	すずかけ作業所 (昭和59年～)	広宣寺 (本門仏立宗)	大塚あすなろ公園
津門保育所 (昭和46年～)			津門大箇公園
津門児童館 (昭和47年～)			西あけぼのふれあい公園
西宮年金事務所【平成22年1月から名称変更 旧：西宮社会保険事務所】 (昭和55年～) ⇒平成14年5月 津門大塚町に移転			※他に小公園があります
津門学童「児童館センター」 (昭和55年～)			
名神あけぼの園 (昭和63年に上甲子園から移転)			

() 内は開設年

各町のデータ

町名	世帯数	人口	65歳以上人口	高齢化率(%)
津門飯田町	15	31	13	41.9
津門大塚町	1,031	2,325	360	15.5
津門大筒町	1,028	2,089	376	18.0
津門綾羽町	614	1,235	302	24.5
津門呉羽町	856	1,716	257	15.0
津門稻荷町	586	1,219	284	23.3
津門仁辺町	312	601	131	21.8
津門西口町	656	1,390	258	18.6
津門宝津町	424	718	203	28.3
今津山中町	588	1,285	281	21.9
今津曙町	854	1,486	407	27.4
合計	6,964	14,095	2,872	20.4

世帯数・人口は平成22年1月6日、65歳以上人口は平成21年7月17日現在。

(7) 津門ふれあい夏まつり	年1回(概ね8月の第1金・土曜日 2日間) 21年度 約3,500人	○	→継続
(8) 三世代交流グラウンドゴルフ大会	年1回(概ね9月)⇒18年度から実施	○	→継続
(9) 高齢者のつどい	年1回(9~10月)⇒18年度から実施 (従前は敬老会) 21年度 485人	○	→継続
(10) 新年互礼会	年1回(1月)⇒21年度 171人	○	→継続
(11) 津門まちめぐりスタンプラリー	年1回(11月)⇒19年度から実施 21年度 441人+関係者	○	→継続
(12) その他	在宅ねたきり老人等及び介護者お見舞い事業を民生委員の協力により実施⇒訪問し、お見舞品を贈呈	○	→継続

ア. 18年度

(ア)「見守り部会」と「食事サービス部会」を「ふれあい部会」として統合。

=見守り対象者等への支援活動を総合的に進めるため。=

※2 「ふれあい部会」活動として津門地区及び町ごとに実施しているが、近年の社会経済情勢(安価で多種類の弁当が出回っている)では再考を要すると思える。会食は、対象者等のふれあい交流として有意義な面を持っているが、配食には検討を要する。又、食事の提供費用(一食500円)についての問題もある。⇒要検討

※3 もう少し各種の学習・研修活動を推進していくべき。⇒充実化

3. 津門地区自主防災会の運営(防災活動)

項目	内容	評価	方向性
(1) 組織、体制	協議会の直轄組織として、12町会及び各種団体等の関係者により会を編成	○	→継続
(2) 活動	年1回、防災訓練を実施 随時に西宮市防災訓練等に参加・協力	○	→継続

4. 各種施設等の運営<年間>

項目	内容	評価	方向性
(1) 津門留守家庭児童育成センター	運営委員会(8人)を年6回程度開催 保護者会を開催 入所児童の出席率が高く、利用度は多い	◎	→継続
(2) 大箇市民館	運営委員会(12人)を年1回程度開催 会合及び各種行事等の使用がある。	○	→継続
(3) 津門集会所	運営委員会(12人)を年1回程度開催 会合及び生花、書道、ヨガサークル等の使用がある	○	→継続
(4) つと老人いこいの家	行事のほかカラオケや囲碁の使用がある	○	→継続
(5) その他	「津門児童館」の運営に参画・協力	○	→継続

5. 募金等の活動

項目	内容	評価	方向性
(1) 日本赤十字社員 増強運動・社資 募集	5月中 ＝点検資料2のとおり＝	△	→継続
(2) 共同募金運動	10月中 10月1日に地区内の駅前ターミ ナル3カ所で街頭募金を実施 ＝点検資料2のとおり＝	○	→継続
(3) 歳末たすけあい 運動（募金）	12月中 ＝点検資料2のとおり＝	△	→継続
(4) 市社協会員募集	適宜（年間） 7月を強化月間として実施 ＝点検資料2のとおり＝	◎	→継続

ア. 募金活動については、それぞれの募金により増減があるものの募金額は概ね減少の傾向で推移しているが、昨今の社会経済情勢ではやむをえないと思えるし、これからも増加していくとは考えにくい。

当面は、減少しないことに留意し、できるだけ現状を維持していくことが肝要と考えざるをえない（強化は困難）。

イ. 市社協会員募集は、現在のところ市社協分区でもトップクラスの募集実績になっており、募集実績の半額が津門地区の活動財源になるので、よい傾向であり、これからも維持・強化していくべき。

6. 各種団体等に対する協力・援動の推進

協議会の構成団体等（12町、15団体・機関）との相互協力並びに諸活動に対する援助等を実施している。→継続

現在、協議会規約に基づき、以上の事業活動を実施し、総合的な立場で地区住民の生活環境の改善及び社会福祉の向上を図り、協議体・連合体としての役割を果たしている。

《協議会規約に定める目的及び事業（第4条）》⇒規約の抜粋

本会は、協議機関であって、参加関係団体の自主性を尊重し、相互理解のもとに協調・連絡・協力しあうことを目的として下記の事業を行う。

- (1) 地区内関係団体の協調連絡を図り、協力施策と育成に関する事業
- (2) 社会福祉に関する調査・研究・啓発事業
- (3) 西宮市社会福祉協議会との連絡・協力事業
- (4) その他、必要と認められる事業

津門社会福祉協議会の組織・機構図

別 紙

津門社会福祉協議会とは

津門社会福祉協議会は、津門地区の12町（福社会・自治会）と15団体・機関で構成している**地区の連合体、複合体組織**であり、総合的な形で地区住民の福祉向上をめざしています。又、西宮市社会福祉協議会今津支部「津門分区」としての事業も行っています。

津門地区のまとめり

12町と15団体・機関が相互に縦横のラインで結び付き、それぞれの立場を保ちながら地区住民のために協力連携しあい、よりよい地域社会（コミュニティ）づくりを図っています。すなわち、各町及び団体・機関ごとの事業活動を進めながら協議会として全体事業にも取り組んでいることになり、このことが津門地区の**“まとめり”**を産み、最も重要な要素になっていると考えます。

特色としては

協議会で津門集会所を設置し、その運営を行い、同所で「つと老人いこいの家」事業も実施していることや自主防災会を協議会直轄の組織として整備していることなどが、津門地区の特色と思えます。

今後に向けて

何と云っても12町と15団体・機関と協議会の役割分担と全体協力体制を継続していくことが必要不可欠なことです。そのためには、各町及び各団体・機関ごとの体制整備を図るとともに協議会の組織・機構についても検討していく必要があります。

その上で、時代に沿った事業活動を研究しながら展開していき、地区住民の福祉向上に繋げていきたいと望んでいます。

こういったことをふまえ、今後5年間の活動目標（表紙に記載の福祉目標・重点目標）を設定し、できることから少しずつでも“津門地区のまちづくり”を進めていきます。

津門社会福祉協議会「第6次地域福祉推進計画」 点検資料 1

(西宮市社会福祉協議会 今津支部津門分区)

=平成17年度～21年度の5カ年計画=

【平成22年1月末 現在】

重点目標(5項目、24の主な内容) ⇒ 進捗状況	評価	方向性
1. 地区活動の人材確保		
①住民意識の向上⇒具体的な成果として捉えることは難しいと思えるが、地区全体及び各町・各種団体ごとに地域活動に対する住民の参加を促し、理解と協力を求めている。	○	→継続
②若年層の参加⇒行事への参加は増えているが、役員等は増加してこない。現在の社会・経済情勢(少子高齢化、景気等)では困難な部分もあり、現状維持に努力しながら徐々に進めている。	(○) △	→継続 (強化)
③老・壮・青年の連携協力⇒②とも関連するが、「老」は多いので「壮・青年」の参加を促しながら連携協力を目指している。	△	→継続 (強化)
④役割分担(役職の分散)の研究⇒役員任期に合わせて協議・検討している。18年度からは、「事務局」を設置し、新たに事務局長を配置するとともに書記1名を増員した。	◎	→継続
⑤福祉学習の取組み⇒具体的な取組みは少ないが、公民館講座等の参加を勧めている。=適宜に実施=	○	→適宜 に実施
2. ふれあい交流活動の充実		
①夏まつり⇒順調に実施。18年度は、津門小学校が建替工事中のため使用できないにもかかわらず、西口公園において従来とほぼ変わらない状況で開催できたし、20年度からは元通り以上に充実した内容で開催している。	◎	→継続
②チビッコ遊び場つと⇒活動を強化し、18年8月から月2回(従前は1回)開催している。利用者は増加し、内容も充実した。	○ (◎)	→継続
③防災活動⇒取組みを強化・充実し、防災意識の向上を目指している。18年度には、初めて「まちなか(発災対応型)防災訓練」を実施し、防災講演会も開催した。その後も順調に防災訓練を実施している。	◎	→継続
④ファミリー運動会への協力・支援⇒18・19年度は共催し、補助を実施。その後も従前(17年度まで)どおり後援している。	○	→継続
3. 見守り活動の強化・推進		
①住民相互の挨拶と声かけ、②地区内散歩等による見守り活動⇒日常的な形で適宜に継続実施している。	○	→継続
③高齢者及び児童関係者の連携活動⇒各町福祉会等で老人クラブ、PTA及び青愛協等の連携により、見守り活動の強化・推進を図っている。特に、小学校児童下校時の見守りに高齢者が大きく携わっている。	◎	→継続
4. 地区施設の利用促進<点検資料2のとおり>		
①津門集会所⇒利用回数・利用人数ともしだいに増えてきており、順調(以上)に利用されている。	◎	→継続
②つと老人いこいの家⇒利用回数・利用人数とも年々減少してきている。特に、利用人数の減少が目立つので留意すべき。	△	→継続 (強化)
③西口老人いこいの家⇒西口町福祉会が順調に運営しており、今のところ津門社協で支援する必要も携わることもない。	○	→継続

④大箇市民館⇒利用回数・利用人数とも年度により多少の増減はあるが、16年度に比べるとかなり増加し、順調と思える。	◎	→継続
⑤育成センター（学童保育）⇒運営委員会が常によりよい運営をめざしている。	○	→継続
5. 住環境点検及び改善の促進		
①違法駐車、②迷惑駐輪の点検及び排除⇒各町の役員等により、それぞれの状況に応じて改善を図っている。駐車禁止区域は増加。	◎	→継続
③地域清掃の推進⇒常日頃から各町で適宜に取り組んでいる。又、年2回の「わがまち町クリーン大作戦」を地区全体・町全体で実施している。老人クラブ・子ども会等の取り組みや参加も増え充実化。	◎	→継続
④路上違反広告物追放の推進⇒委員や環境衛生関係者を中心に取り組み、激減しているので、大幅な成果を上げている。	◎	→継続
⑤今津駅周辺の環境問題の研究⇒隣接の今津地区との関連もあり、又、困難な課題でもあるため着手できていないが、周辺の環境美化はかなり進んでいる。	△ (×)	↓再考 を要する
⑥防犯活動⇒防犯協会（今津駅前支部及び北今津支部）を中心に毎月、防犯パトロール等を実施し、防犯活動の継続強化を進めている。＝多くは町ごとに実施＝	○	→継続

＜重点目標以外（全般的に）＞

1. 組織運営

事務局の設置（18年度）及び部会（18年度）並びに委員会（20年度）の再編・整備を実施するなど、徐々に必要に応じた組織体制の整備・強化を進めている。

2. 事業活動

新規事業として、18年度から従前の「敬老会」に替わる「高齢者のつどい」（町ごとに12カ所で開催）及び「三世代交流グラウンドゴルフ大会」、19年度からは「つと町めぐりスタンプラリー」を実施し、順調に取り組みを進めている。このように、特に、住民のふれあい交流事業を強化・充実している。

その他、各種懇談会や講座・講演会等も定例的又は適宜に開催し、かなり事業活動を増加したが、各町及び各種団体の役員その他関係者一同の理解と協力により、滞りなく実施できている。

しかしながら、かなり多忙になりつつあるので、十分に工夫しながら事業活動を進めていくことに留意すべきとも思える。

3. 募金等の活動⇒点検資料2のとおり

3募金は相変わらず伸び悩みであり、市社協会員募集は着実に増加中。特に、赤十字社資募集の減少が目立つが、18年度から街頭募金（共同募金）に今津中学校の生徒が参加協力していることは、一つの進展があったものと評価できる。

※ 全般的には、運営及び活動とも限界に近づいていると思え、今後の進展については、全て「地区活動の人材確保（重点目標1）」にかかっていると考えられる。

【平成22年1月末 現在】

津門地区 施設の利用状況

1. 津門集会所

区分	16年度	17年度	18年度	19年度	20年度	21年度	備考
利用回数	218	212	244	306	294	未集計	134.9%
利用人数	3334	3400	3428	4029	3906	未集計	117.2%

2. つと老人いこいの家

区分	16年度	17年度	18年度	19年度	20年度	21年度	備考
利用回数	198	196	189	181	169	未集計	85.4%
利用人数	2025	2077	1868	1777	1309	未集計	64.6%

3. 大筒市民館

区分	16年度	17年度	18年度	19年度	20年度	21年度	備考
利用回数	539	565	670	638	669	未集計	124.1%
利用人数	8646	8322	12404	10361	9954	未集計	115.1%

津門地区 募金等の実施状況

1. 日本赤十字社社資募集

(金額単位：円)

区分	16年度	17年度	18年度	19年度	20年度	21年度	備考
目標額	1045000	1026000	1026000	1019000	1016000	1011000	
実績額	992016	958114	937887	967780	923212	871284	87.8%

2. 共同募金

(金額単位：円)

区分	16年度	17年度	18年度	19年度	20年度	21年度	備考
目標額	936000	909000	911000	881000	861000	852000	
実績額	721875	761401	768357	770110	754121	734077	101.7%

3. 歳末たすけあい運動(募金)

(金額単位：円)

区分	16年度	17年度	18年度	19年度	20年度	21年度	備考
実績額	613434	558570	604721	657260	569000	582350	94.9%

4. 市社協会員・会費募集

(金額単位：円)

区分	16年度	17年度	18年度	19年度	20年度	21年度	備考
実績額	588500	615000	651500	696000	762500	未集計	129.6%

(参考) 平成21年度12月末現在の実績額 770,500円

※ 備考欄は、平成16年度(計画前)に対する計画最終年度(平成21年度→未集計の場合は20年度)の比較率